

2022年度(2022・6月～2023・5月)

環境経営活動レポート

2023年8月3日

環境経営方針

■ 基本理念

当社の事業内容は工業用硝子製品の販売であり、それに伴う仕入れ・梱包納品等の全ての活動は地球環境への負荷を発生させることを常に認識し、地球環境の保全に配慮した事業運営を行います。

■ 環境保全の行動指針

1. 社員一人一人が環境方針を理解し、環境保全へ積極的に取り組みます。
2. 環境関連法規や当社が約束したことを遵守いたします。
3. 次の項目を当社が行う環境活動の重点項目とし、これに基づき環境目標を定め必要に応じ目標値を見直す等、継続的に効果的な取組を行います。

- ① 事務所内の省電力
- ② 営業車の省エネルギー
- ③ 水道使用量の削減
- ④ 廃棄物の削減
- ⑤ リサイクルの推進
- ⑥ コピー用紙の節約・有効利用
- ⑦ 協力工場における界面活性剤・洗浄剤等の削減
- ⑧ グリーン購入の促進
- ⑨ 環境保全に役立つ製品の開発及び販売に取り組む

4. 環境レポートを公表し、環境コミュニケーションに積極的に取り組みます。

2010年6月1日
株式会社シマコルツ
代表取締役社長 嶋 進

■ 事業の概要

取組の対象:全組織、全活動が対象

(1) 事業者名・代表者名

株式会社シマコルツ

代表取締役社長 嶋 進

(2) 所在地

〒114-0015

東京都北区西ヶ原3-66-9ビコックビル 2 階

(3) 環境管理責任者名・連絡先

冬木 肇

TEL 03-3918-1177 FAX 03-3918-1083

Eメール fuyuki-h@circus.ocn.ne.jp

(4) 事業内容

工業用硝子製品の販売

(5) 事業の規模

売上高 378 百万円/年 (2021 年度)

従業員数 5名(2020 年 5 月)

事業所延べ床面積 115.64 m²(2018 年 3 月に新事務所に移転)

(2018 年 3 月に新事務所に移転。旧事務所 82.52 m²)

■ 過去の環境負荷実績

項目	単位	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	6092.5418	5774.088	5564.482	4705.80
CO2/売上高	Kg-Co2/百万円	10.997	10.385	12.365	13.64
廃棄物排出量	Kg	225	105	97	90.6
総排水量	m ³	162.07	70.356	67.431	67.5

2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
4541.8	3854.5	3506.2	3253.34	3868.5	3981.2	3850.7
11.2	11.6	12	11.2	11.2	11.7	9.7
92.3	88.0	79.6	85.0	81.0	79.0	81.0
65.0	66.0	65.0	62.5	66.0	60	62.5

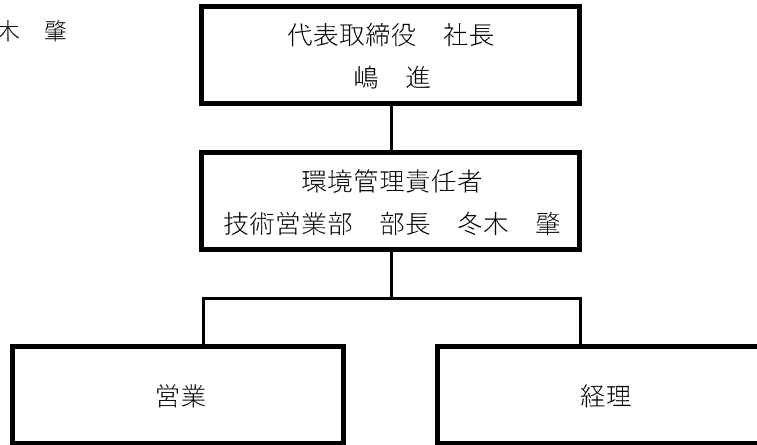
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
4174.1	6693.0	6274.6	6148.2	6565.9	5868.9	
7.40	12.39	17.0	16.6	14.8	15.52	
91.5	77.4	74.3	77.5	75.5	71.0	
59	48	50.0	50.0	50.0	47.0	

■実施体制

株式会社シマコルツ 環境経営システム実施体制

作成日： 2022年6月16日

作成者： 冬木 肇



	役割、責任及び権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・ 環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する。 ・ 効果的で必要十分な実施体制を構築する。 各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員へ周知する。 EA 2 1 を運用し、維持するための経営資源を用意する。 ・ 環境経営全体の取組状況及びその効果を評価し、以下の項目を含む総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ①環境経営方針 ②環境経営目標及び環境経営計画 ③実施体制 ・ 環境経営システムに関する決定・承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境への負荷と取組の状況の把握及び評価。 ・ 環境関連法規などの取りまとめ、並びに遵守状況の評価。 ・ 環境経営目標及び環境経営計画の策定、並びに達成状況・実施状況の評価。 ・ 問題がある場合は是正処置、予防処置の実施。 ・ 教育・訓練の実施。 ・ 環境コミュニケーションの実施（内部、外部、環境経営レポート） ・ 環境上の緊急事態への準備及び対応。 ・ 文書類の作成・管理
営業 経理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の達成、並びに環境関連法規などの遵守に必要な取組を実施する。 ・ 必要に応じて手順書を作成し運用する。

■環境目標及びその実績①

(CO2 関連・節水廃棄物関連)

環境目標	基準値 ※1	目標値	2022 年度 (運用期間) 実績値	実績・評価	
電力消費量 削減 ※2	6,158kWh 2,845kg-CO ₂	3%削減 5,973kWh 2,760kg-CO ₂	6,077kwh 2,807.57kg-CO2	目標を達成できなかった。 基準値(2018 年度実績)よりは削減できた。	△
都市ガス 消費量削減	1,212m ³ 2,618kg-CO ₂	3%削減 1,176m ³ 2,539kg-CO2	1,279m ³ 2,762.0kg-CO2	目標を達成できなかった。 基準値(2018 年度実績)を大きく上回ってしまった。	×
ガソリン 消費量削減	530 ℓ 1,230kg-CO ₂	3%削減 514 ℓ 1193kg-CO ₂	128.75 ℓ 298.70kg-CO2	目標を達成した。 基準値より大幅削減。	○
CO2 排出削減	6,693kg-CO ₂	3%削減 6492kg-CO ₂	6,490.99kg-CO2	目標を達成した。 基準値より200kg 削減できた。	○
水道 使用量削減	48 m ³	基準値以下 48 m ³	47.0m ³	目標を達成した。	○
廃棄物 排出量削減	(可燃) 69kg	基準値以下 69kg	65.0 kg	目標を達成した。 5.7%削減	○
	(不燃) 8.5kg	基準値以下 8.5kg	6.0kg	目標を達成した。 29%削減	○
	(古紙再利用) 57kg	基準値は参考値 古紙は全量を梱包用緩衝材に再生する。 57kg	56kg	目標を達成した。 廃棄書類全量を、梱包用緩衝材に再生した。 ※P7 ご参照ください。	○
コピー用紙 使用量削減	(事務用紙) 15,840 枚	基準値以下 15,840 枚	15,298 枚	目標を達成した。 2.7%削減	○
リサイクルの 推進	ペットボトル	目標を定めず 現状値を測定中	4kg	飲料用ペットボトルをリサイクルした。	○
	ペットボトル 古新聞		48kg	新聞紙を全量リサイクルした。	○

※1 基準値:ガソリン消費量は 2015~2017 年の平均値を使用。それ以外は 2018 年度の実績値。

※2 電力による二酸化炭素排出係数は0.462Kg・CO2/Kwhを使用。

(東電調整後排出係数/H30.12.27/環境省公表)

■環境目標・中長期目標①

(CO2削減・節水、廃棄物削減)

環境目標	基準値	環境目標(対基準値)			補足説明
		2023年度	2024年度	2025年度	
電力消費量削減*1	6,048 kWh 2,794kg-CO ₂	基準値以下 6,048 kWh 2,794kg-CO ₂	基準値以下 6,048 kWh 2,794kg-CO ₂	基準値以下 6,048 kWh 2,794kg-CO ₂	基準値は 2020～2022年度 平均値
都市ガス消費量削減	— 1,414m ³ 3,054 kg-CO ₂	基準値以下 1,414m ³ 3,054kg-CO ₂	基準値以下 1,414m ³ 3,054kg-CO ₂	基準値以下 1,414m ³ 3,054kg-CO ₂	基準値は 2020～2022 年度 平均値
ガソリン消費量削減	— 149 ℓ 346kg-CO ₂	基準値以下 149 ℓ 346kg-CO ₂	基準値以下 149 ℓ 346kg-CO ₂	基準値以下 149 ℓ 346kg-CO ₂	基準値は 2020～2022 年度 平均値
CO2排出削減	— 6,194kg-CO ₂	基準値以下 6,194 kg-CO ₂	基準値以下 6,194 kg-CO ₂	基準値以下 6,194 kg-CO ₂	基準値は 2020～2022 年度 平均値
水道使用量削減	— 48 m ³	基準値以下 48 m ³	基準値以下 48 m ³	基準値以下 48 m ³	基準値は 2018年度 実績値
廃棄物排出量削減	(可燃) 69kg	基準値以下 69kg	基準値以下 69kg	基準値以下 69kg	基準値は 2018年度 実績値
	(不燃) 8.5kg	基準値以下 8.5kg	基準値以下 8.5kg	基準値以下 8.5kg	基準値は 2018年度 実績値
	(古紙利用) 48kg	基準値以上 48kg	基準値以上 48kg	基準値以上 48kg	基準値は 2018年度 実績値
コピー用紙使用量削減	(事務用紙) 15,840枚	基準値以下 15,840枚	基準値以下 15,840枚	基準値以下 15,840枚	基準値は 2018年度 実績値
リサイクルの推進	ペットボトル	—	—	—	現状値を測定中
ペットボトル古新聞	古新聞	—	—	—	現状値を測定中

*1:電力による二酸化炭素排出係数は0.462kg-CO₂/kwhを使用。

■環境目標及びその実績・中長期目標②

(界面活性剤等の削減・グリーン購入の促進)

環境目標	基準値	環境目標(対基準値)			実績・評価	
		2022年度 運用期間 *2	2023年度	2024年度	2022年度 運用期間 *2	
協力工場における界面活性剤等の削減① 研磨工場 残存研磨剤の洗浄工程に従来使用していた中性洗剤をアルカリオン水に全量代替する。	アルカリオン水導入前の中性洗剤使用量 15 リットルに対して、11年度の試用期間に全量を代替できることが確認された。	0 (全廃)	0 (全廃)	0 (全廃)	0 (全廃)	○
協力工場における界面活性剤等の削減② MC加工工場 製品出荷前の洗浄、生産用治工具の洗浄にてアルカリオン水を用いて従来使用していた有機溶剤を削減する。	アルカリオン水導入前の有機溶剤使用量 10 リットルに対して、11年度の試用期間に50%程度を代替できることが分かった。	5 (50%削減)	5 (50%削減)	5 (50%削減)	1.5 (85%削減)	○
協力工場における界面活性剤等の削減③ 蒸着工場 基板の予備洗浄にて、アルカリオン水を用いて従来使用していたアルカリ洗剤を削減する。	アルカリオン水導入前のアルカリ洗剤使用量 10 リットルに対して、11年度の試用期間に50%程度を代替できることが分かった。	5 (50%削減)	5 (50%削減)	5 (50%削減)	2.0 (85%削減)	○
グリーン購入を促進する 会社で購入する文房具は、エコマークが付いている商品を優先的に購入する。	全購入点数におけるエコマーク付き商品の割合を70%以上とすることを目標とする。	70%以上	70%以上	70%以上	全購入数 28点 エコマーク付 28点 (100%)	○
環境保全に役立つ製品の開発および販売に取り組む 環境保全に役立つ製品を開発・生産し販売実績を記録する。	太陽電池検査用ソーラシミュレータに使用されるコリメータレンズの販売数(個数)	—	—	—	19個	○

*2:運用期間は2018年度。(2018年6月～2019年5月)

次年度の環境経営目標・環境経営計画（2022年度作成）

No	環境経営目標		環境経営計画
	項目	目標値	取組の内容
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量削減 kg-co ₂ /年	①休み時間、蛍光灯の半分を消灯する
			②トイレ等の消灯の徹底する
			③OA機器を節電モードで使用する
			④OA機器買い換え時は省電力製品を優先する
			⑤蛍光灯を順次LED化する
	都市ガス使用量削減 kg-co ₂ /年	3,054	①エアコンの設定温度を適切にする
ガソリン使用量削減 kg-co ₂ /年	346	①急発進・急ブレーキをしない	
		②タイヤの空気圧を適正化する	
		③余分な荷物は積まない	
		④極力交通機関を使う	
合計 kg-co ₂ /年	6,194		
2	可燃ごみ削減 kg/年	69	①梱包用品の再利用に努める
			②紙ごみを梱包用パッキンとして再利用
	不燃ごみ削減 kg/年	8.5	③可・不燃ごみの計量を実施する
			④可燃・資源の区分けを徹底する
	コピー用紙使用量削減 kg/年	15,840	①無駄なコピーをしない
			②廃棄書類の裏面を活用する
	古紙利用推進 kg/年	48	①廃棄書類を梱包用緩衝材に再利用する
ペットボトルリサイクル	—	①分別管理を徹底する	
		②計量する	
古新聞紙リサイクル	—		
3	水使用量の削減 m ³ /年	48	①使用時に蛇口を開き放しにしない
			②蛇口の閉め忘れ防止を徹底する
4	コリメータレンズの販売促進	—	①太陽光発電パネルの発電能力測定用レンズの販売促進を通して、環境保全に貢献する
5	協力会社の洗浄用界面活性剤等の削減	—	①洗浄剤用界面活性剤等を、アルカリイオン水で代替する
6	グリーン購入の促進	エコマーク	①文房具はエコマーク商品を優先購入する
		70%	

■ 環境活動計画と評価

活動計画	評価(結果と今後の指針)
<p>事務所内の省電力 休み時間、蛍光灯の半分を消灯する。 トイレ等の消灯の徹底。 OA 機器は節電モードで使用し、買い替えるときは省電力のものにする。 蛍光灯を順次省電力品に交換する。</p>	<p>目標を達成することが出来なかった。後述のガスと同様新型コロナウイルス対策による換気しながらの冷暖房使用や夏季の酷暑での冷房使用頻度の増大が原因と思われます。(結果) 直近3年間の電力使用量の平均値を計算し、それを基準値として来年度以降の目標にしました(今後の指針)</p>
<p>ガスの使用量の削減 エアコンは適正に利用する。</p>	<p>基準値を大幅に上回ってしまった。弊社の空調はガスヒートポンプによる駆動なので上記の電力以上に空調の使用頻度がガスの使用量に大きく影響します。(結果) 直近3年間の電力使用量の平均値を計算し、それを基準値として来年度以降の目標にしました(今後の指針)</p>
<p>営業車の省エネルギー 急発進・急ブレーキをしない。 タイヤの空気圧の適正化。 余分な荷物を積まない。 極力公共交通機関を使う。</p>	<p>目標を達成することができました。前年度、全前年度に引き続き、上記2項目とは逆に新型コロナウイルス対策で取引先に直接訪問する機会が減ったことによるプラスの影響が大きいと思います。(結果) 直近3年間の平均値を基準値として来年度以降の目標にしました。(今後の指針)</p>
<p>節水 水道使用時に蛇口を開き放しにしない。</p>	<p>目標を達成しました。(結果) 小まめな節水を心がけたいと思います。(今後の指針)</p>
<p>廃棄物の削減 梱包用資材の再利用に努める。 紙ゴミを梱包用パッキンとして再利用する。 可・不燃ゴミの計量を実施する。</p>	<p>目標を達成することができました。(結果) 梱包用資材の再利用と裁断した古紙を梱包用パッキンに再生する活動は、当社の環境保全活動のなかで独自のアイデアが一番詰まっています。今後も創意工夫を凝らして活動を継続していこうと思います。(今後の指針) (次ページの活動紹介をご覧ください)</p>
<p>リサイクルの推進 新聞紙・ペットボトル等はリサイクルする。</p>	<p>計画的にリサイクルしております。</p>
<p>コピー用紙の節約 無駄なコピーをしない。 廃棄書類の裏面を活用する。 廃棄書類を梱包用パッキンとして再利用する。</p>	<p>FAXの受信を画像化し不要のものを出力しないことにより、1日/10~20枚程度のコピー用紙の節約になっています。また、書類の電子化による節約効果も顕著です。(結果) 今後も事務用紙の削減に努めたいと思います。(今後の指針)</p>
<p>協力工場における界面活性剤・洗浄剤等の削減 アルカリイオン水による代替により、協力工場で使用される界面活性剤・洗浄剤等の削減をする。</p>	<p>仕入れ先工場様の協力のおかげで安定的に洗浄剤等の削減が行われるようになりました。この場で感謝の言葉を述べたいと思います。</p>
<p>グリーン購入を促進する 会社で購入する文房具はエコマークが付いている商品を優先的に購入する。全購入点数に対するエコマーク商品の割合を70%以上とすることを目標とする。</p>	<p>エコマーク付きの優良商品の購入の結果、長持ちするので購入数の削減にもつながりました。(結果) 今後もエコマーク付きの商品を優先して購入したいと思います。(今後の指針)</p>
<p>環境保全に役立つ製品の開発および販売に取り組む 太陽電池検査用ソーラシミュレータに使用されるポリメータレンズの販売実績を記録する。</p>	<p>太陽電池パネル生産時の検査などに使用されるソーラシミュレータに搭載されるポリメータレンズの販売実績を記録し、HPなどでPRします。新たな商品も開拓したいと考えております。 (次ページの活動紹介をご覧ください)</p>

■ 活動紹介

① 裁断した廃棄書類を利用した梱包用緩衝材



当社の製品のほとんどが壊れやすい硝子製品です。輸送中に箱の中で動いて壊れないように、緩衝材を詰めて出荷します。

この緩衝材、毎日かなりの量を使います。その一部にシュレッダーで裁断した廃棄書類を利用した手作りの緩衝材を使っています。(写真)

細かく裁断した廃棄書類を適当な大きさの袋に詰めるだけで簡単に作れます。

写真のような紙の袋を使っていますが、結構丈夫で数回使いまわせます。重宝しています。

② ソーラシュミレータ用コリメータレンズ



再生エネルギーとしてお馴染みの太陽光発電。使われる太陽電池が所定の発電能力を持っているかどうかを調べるには、太陽光と同じ光をあてて検査する必要があります。

人工的に太陽光を作り出す装置がソーラシュミレータです。この装置の中に当社のレンズが使われています。コリメータレンズという光を平行に照射するために用いられるレンズです。

これらの製品を通して、環境保全に役立つ企業活動を推進していきたいと考えています。

■ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、過去3年間にわたって訴訟等もありませんでした。

■ 代表者による全体評価と見直しの結果(2023年7月28日作成より。総括部を抜粋)

感染症対策の導入等による職場環境の変化に合わせた環境目標の再設定を行うと共に引き続き環境負荷低減を意識して日々の営業活動に取り組んでください。